立命館大学
朱雀キャンパス公開講座

シネマで学ぶ「人間と社会の現在」

この公開講座は、映画が表象する「関係性の様態」を読み解きながら、「人間と社会の現在」について考える機会にしたいと願い企画されています。

上映後の対談や講義とあわせて、映画の持つ“時には奇想天外で、たまには刺激的な、どちらかといえば胸さわぎのする発想”に学びつつ、私たちの視界を広げる試みとして位置づけています。

講座終了後、ロビーにておいしいコーヒーをお出ししております。憩いのひとときと共に、講師や聴講された皆様で交流を深めて頂きながら、結論のない、あるいは結論がひとつではない、対話を楽しむ道楽としての「シネマ人間学」をじっくりと楽しんでいただければと思います。

シリーズ 9　私のなかのあなたたち、だから私はひとりになれる

5月14日(土) ハチミツとクローバー

2006/ 日本 /116 分 / アスミック・エース / 監督 / 脚本：高田雅博
出演：櫻井翔、伊勢谷友介、蒼井優、加瀬亮、関めぐみ、堺雅人

ゲスト カワキタカズヒロ さん (漫画家) 聞き手 神谷雅子

6月25日(土) こちらカナイからの手紙

2005/ 日本 /113 分 /IMJ エンタテインメント
監督・脚本：熊澤尚人 / 出演：蒼井優、南果歩、金井勇太、斎藤歩

ゲスト 岡本 直子さん 聞き手 中村正

7月23日(土) 百万円と苦虫女

2007/ 日本 /121 分 / 日活 / 監督・脚本：タナダユキ
出演：蒼井優、森山未來、ピエール瀧、竹財輝之介、笹野高史

ゲスト 神谷雅子さん 聞き手 斎藤 真緒

主催：立命館大学 / 共催：京都シネマ / 企画協力：立命館大学人間科学研究所 / 協力：IMJ エンタテインメント、日活、アスミック・エース
企画コーディネート：神谷雅子 (京都シネマ代表、産業社会学部 教授)・中村正（応用人間科学研究科 教授)

会場：立命館朱雀キャンパス 5F 大講義室 (ホール)
参加費：一般￥800
京都シネマ会員 / 立命館大学生・教職員￥500
時間：13：00 開場　13：30 開演
対談 15：30 ～ 16：30(* 上映時間により多少異なります。)
講座終了後、ロビーにて「朱雀シネマ CAFE」を開いて皆様に
スペシャルティーコーヒーと茶菓子をお出ししております (無料)。

* 当日 13：00 よりチケットの販売を開始します (事前の受付及び整理券の配布はございません)
* 駐車場・駐輪場がございませんので、ご来場には公共交通機関をご利用下さい
* 満席の場合ご入場を制限させていただくこともございますのでご了承ください

変更しました お問い合せ先：学校法人 立命館　社会連携部社会連携課
〒604-8520　京都市中京区西ノ京朱雀町 1 番地
TEL：075-813-8110　FAX：075-813-8167
E-mail：cinemas@st.ritsumei.ac.jp
URL：http://www.ritsumeihuman.com/

* 「朱雀シネマ CAFE」は地元の Cafe Phalam 様にご協力いただいております。

私のなかのあなたたち、だから私はひとりになれる の開催にあたって

さまよい、漂い、焦り、苛立ち、時には有頂天になったりして、青春はとにかく落ち着かない。言葉にならないからこそ関係が密になる。身体と行動と感情と理性がちぐはぐだ。ピンボールマシンのようにあちこちで人にぶつかりあう。私探しなんて甘ちょろい。とにかく Doing is being ！そんな「さまよい人」は孤独で辛く寂しいけれど、でも、一人のようでひとりではなく、私のなかにたくさん住まうあなたたちとの関係を励みに生きていこうと思っている。あなたは華奢だけど、人の渦をつくる、「弱いけど強い」魅力がある。二十歳の頃の人間関係、それは自立と孤独の原風景をかたちづくる。その最中の人も、これからの人も、もう過ぎた人も、ともに確認しておきたいことが描かれている。

5月14日(土)

ハチミツとクローバー

幅広い世代の支持を得る、羽海野チカの同名コミックを映画化した青春ラブストーリー。美大に通う男女５人を中心に、甘酸っぱい恋と青春の物語が展開する。主人公・竹本を演じるのは人気グループ「嵐」の櫻井翔。そのほか、『雪に願うこと』の伊勢谷友介、『花とアリス』の蒼井優、『花よりもなほ』の加瀬亮、『八月のクリスマス』の関めぐみがメインキャストに名を連ねている。スピッツとスガシカオがそれぞれ書き下ろした主題歌とエンディング曲も話題。

©2006「ハチミツとクローバー」フィルム パートナーズ

6月25日(土)

ニライカナイからの手紙

スペイン映画祭など国際映画祭で話題を集めた『Tokyo Noir』の熊澤尚人監督が蒼井優主演で描く３世代に渡る家族愛の物語。共演は『せんせい』の南果歩のほかテレビドラマ「渡る世間は鬼ばかり」の前田吟など実力派ぞろい。舞台となる沖縄の竹富島の静かで美しい風景に心癒される。物語は１年に１回、東京から届く母の手紙を楽しみにしている風希の心情を淡々と丁寧に描いていき、主演の蒼井優が少女の成長を透明感たっぷりに演じている。

©2005　エルゴ・ブレインズ

7月23日(土)

百万円と苦虫女

蒼井優が『ニライカナイからの手紙』以来、3年ぶりに主演を務めた、ほろ苦い青春ロードムービー。ひょんなことから各地を転々とすることになるヒロインの出会いと別れ、そして不器用な恋を丹念に映し出す。監督は『赤い文化住宅の初子』のタナダユキ。共演者も『スマイル 聖夜の奇跡』の森山未來をはじめ、『ワルボロ』のピエール瀧や『転々』の笹野高史ら個性派が脇を固める。転居を繰り返しながら、少しずつ成長して行く主人公の姿に共感する。

©2008『百万円と苦虫女』製作委員会

登壇するみなさん

カワキタカズヒロ 氏
１９５２年生まれ。京都教育大学特修美術科卒業。イラストレーター、漫画家、画家。主に広告関係や新聞、雑誌、子供の本など仕事をしている。読売国際漫画大賞展での２回のグランプリ。作品は国立国際美術館などに収蔵。主な著作に「ふしぎてんし」（福音館書店）「魔女のジョージョー」（学研）など。

岡本　直子（おかもと なおこ）
立命館大学文学部・応用人間科学研究科准教授。専門は臨床心理学、表現療法。『「ドラマ」がもつ心理臨床学的意味に関する研究』（風間書房）、『心理臨床における臨床イメージ』（創元社）、『心理臨床における個と集団』（創元社）、『魂と心の知の探求ー心理臨床学と精神医学の間ー』など。

斎藤　真緒（さいとうまお）
立命館大学産業社会学部・社会学研究科准教授。専門は、家族社会学。主な著作　『男性介護者白書―家族介護者支援への提言』（かもがわ出版）、『テクストとコンテクスト』（晃洋書房）、『育てサークル共同のチカラ―京都の子育てネットワーク 当事者性と地域福祉の視点から』（文理閣）など。

神谷　雅子（かみや まさこ）
立命館大学産業社会学部客員教授。映画産業論などを講義。京都シネマ代表。
「京都朝日シネマ」（2003 年 1 月）閉館後、04 年 12 月に新しいアート系映画館「京都シネマ」をオープン。著作に『映画館ほど素敵な商売はない』(かもがわ出版)。

中村　正（なかむら ただし）
立命館大学産業社会学部・応用人間科学研究科教授。専門は、臨床社会学、社会病理学、男性学。『家族のゆくえ』(人文書院)、『対人援助学の可能性ー助ける科学』の創造と展開』（福村出版、編著）、『ドメスティックバイオレンスと家族の病理』（作品社）など。